

富士山富士宮ルート 山スキー報告

山行日：平成 29 年 5 月 20 日（土）

天候：晴・上部やや強風

登山方法：山スキー

メンバー：CL 菊池 SL 渡辺（俊） 古関 滝本 長池 住田 薄井（記録） 会員外 I

行動時間：富士宮登山口 6:00 - アイゼン登高開始 (2,798m) 7:35-雪渓移動 (3,051m)

8:55-八合目 9:50-九合目 10:30 - 九合五勺 11:05-山頂 12:03-剣が峰

12:25-下山開始 13:15 - 登山口 15:35



富士宮口五合目の駐車場は、一番上がすでにいっぱいだった。この時期の富士山を訪れるのは限られたもの好きだけか思っていたが、何しろ今日はお天気がよく、絶好の登頂日和の予想なのだ。考えることはみな同じなのだろう。

一段下がった駐車場に車を停めて支度をし、登山道入口にて現地集合組と合流した。標高 2,400m と表示のある看板を横目にフェンスを越えて登山道に入ると、上へと続く登山道には、先行者背負うスキーやボードの上部がゆらゆらと動いているのが見える。その風景はシュールで、どこかの宗教の儀式みたいだといつも思う。



歩き始めて1時間半、標高2,798mでアイゼンを装着し、雪渓に乗った。今日は最初から最後までアイゼンで歩く予定。上部にはシール組も見えるが、微妙にきつそうな斜面だ。

ジグを切りながらじりじりと高度を上げ、標高3,050mあたりで少し地面を歩いて右側の雪渓に移動した。この雪渓は山頂まで続いているようで、あとはただ上を目指せばよい。



ここで8人のパーティを二つに分け、早足組は渡辺リーダー以下4人で先行することになった。直後に長池さんが体調不良で、残念ながらリタイアとなった。長池さんを見送り、早足組はペースを上げる。最初は池田さんが少し遅れがちだったが、やがて追いついた。4人で山頂を目指すことができそうだ。

八合目の小屋前で、山頂が見渡せるようになった。山頂に向かって、まるで白い砂糖の山に蟻が群がっているように大勢の登山者が見える。ぽつぽつと滑り降りてくるスキーヤーの姿も見える。

八合目から九合目は1時間足らずで着いたが、間に九合五勺なる小屋があるので、あと1時間で山頂というわけにはいかないらしい。おまけに高度も上がっているし、



最後には登山道が階段になっている急登が待っているようだ。山頂の鳥居が見えている。「あの見えているところが山頂でいいんですよね。偽ピークじゃないですよね」と思わず確かめた。順調に行けば、山頂に到着して剣が峰を往復してくるのも可能かもしれない。



九合五勺から先、広大だった斜面の幅がいよいよ狭まってきた。両側にロープの張られた登山道をじわじわと上り詰め、12時ジャスト（正確には3分）、ついに鳥居に達した。快晴だが、ここまで来ると風は猛烈に強い。

一息入れて荷物をデポしたら、剣が峰まで足を延ばすことにした。頂上の建物の脇を通り抜けると、正面に日本最高所の剣が峰、右手にお鉢のふちがぐるりと続いている。剣が峰直下には、お鉢に滑り込んだシュプールも見えている。

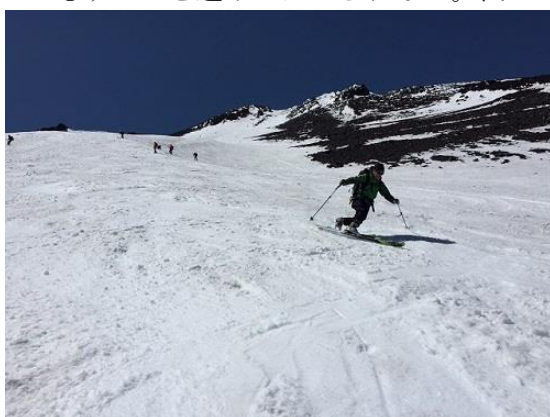
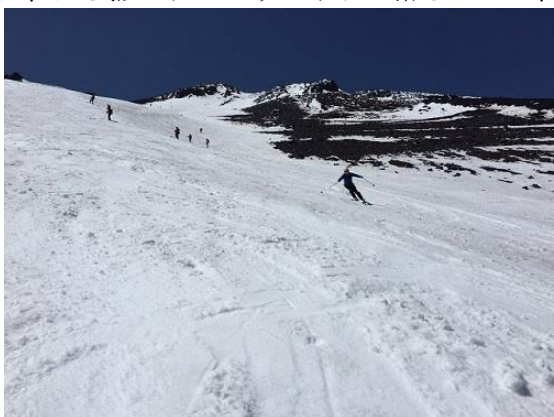
15分ほどで剣が峰に到着。代わる代わる記念撮影をした。測候所の建物の脇に出てみると、南アルプスだろうか、長大な白い山々がすこし霞んではいるが見えていた。



素晴らしい景色を堪能し、剣が峰から戻って休憩。今日は午後1時をタイムリミットに下山を開始することになっているが、後ろのグループは間に合うのだろうか…タイムリミットまであと5分というところで後ろの3人が到着した。ギリギリのところでも間に合い、全員での登頂を喜ぶが、あまりゆっくりしてはいられない。



山頂から少し下ったところで、スキーを流さないように慎重に滑走の準備をする。先週の鎌温泉では、温泉脇から谷底まで片方のスキーが流れていく恐ろしい光景を目にしたし、鳥海山では自らスキーを流してしまった経験もある。ここも障害物がなく、失敗したらどこまでもスキーが流れて行ってしまいうだろう。まずは九合五勺まで滑って、スキーゲポ組と再合流。あとはひたすら下へとスキーを滑らせていく。やたらとよく滑る斜面上には、ばら撒かれたように小石が落ちていて、とてもすべてを避けてはられない。長い時



間かけて登ったかいがあり、滑りもなかなか終わらない。最初の雪渓に戻り間もなくゴールというところで、うっすらとガスが湧いてきた。終日好天に恵まれ、無事に終えられたことを感謝せずにはられない。再びスキーを背中に、ジグザグの登山道をとぼとぼと下りた。富士山の後には、スキーやブーツが砂礫にまみれ、他の山に比べて汚れがひどい。明日は1日片付けに追われそうだ。

